

## 株主インフォメーション

### 配当金はお早めにお受け取りください。

郵便振替支払通知書による配当金のお受け取り期間は、平成17年7月11日までとなっております。郵便振替支払通知書をご持参のうえ、お近くの郵便局でお早めにお受け取りください。

### お受け取り期間を過ぎたら？

お受け取り期間を過ぎますと、郵便局でのお受け取りができなくなります。住友信託銀行の本・支店の窓口でお受け取りになるか、郵便振替支払通知書の裏面記載のお受け取り方法欄に必要事項をご記入のうえ、住友信託銀行証券代行部までご郵送ください。

### 郵便振替支払通知書を紛失された場合は？

住友信託銀行証券代行部までご連絡ください。なお、お支払いの手続きに時間を要しますので、あらかじめご了承ください。

### 銀行振込指定のおすすめ

郵便振替支払通知書による配当金のお受け取りは、お忘れになることもありますので、安心・確実な銀行振込によるお受け取り方法をおすすめいたします。詳しくは住友信託銀行証券代行部までお問い合わせください。

## 株主メモ

決算期	9月20日
定時株主総会	毎年12月
権利確定日	利益配当 毎年9月20日 中間配当を行う場合は毎年3月20日
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417 (その他のご照会) ☎ 0120-176-417
(インターネットホームページURL)	<a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html</a>
同取次所	住友信託銀行株式会社 全国各支店
公告の方法	日本経済新聞に掲載。但し、決算公告に代えて貸借対照表及び損益計算書に係る情報は、 <a href="http://www.falco.co.jp">http://www.falco.co.jp</a> において提供しております。

## 株式会社 ファルコバイオシステムズ

〒604-0911  
京都市中京区河原町通二条上清水町346番地  
TEL(075)257-8500  
<http://www.falco.co.jp>



Fast and Accurate Laboratories with Confidence

## 第18期中間事業報告書

平成16年9月21日から平成17年3月20日まで



株式会社 ファルコバイオシステムズ

証券コード：4671



## 医療総合 サプライヤーとして、 「人」の豊かな未来を。

いつまでも元気に笑顔で暮らしたい。人びとの願いに、どこまで応えることができるのか。私たちは、常に時代を見据え、医療を支える企業としてのあるべき姿をもとめ続けてまいりました。臨床検査事業を中心に幅広い事業を展開し、医療に関わる情報・技術・サービスで社会に貢献してまいります。すべての人が健やかでいきいきと暮らせる明日へと。ファルコグループは、これからも、みなさまの心と身体の健康を支えていきます。



FALCOは“Fast and Accurate Laboratories with Confidence”の頭文字から成り、当社の企業としての姿勢と事業に対する使命を表現したものです。FALCOという言葉はラテン語で「隼」を意味します。隼は猛禽類でありながら、古くから狩猟に用いられるなど、私たち人類の良きパートナーでもありました。その飛翔能力とともに、目標を正確に見定め捕える能力は群を抜いています。また、その姿かたちの精悍さや気品など、多くの人びとによく知られているところです。





代表取締役会長兼社長  
赤澤 寛治

## 人の生命と健康に貢献する、 業界No.1企業を目指して。

「強い企業体力」を構築し、  
揺るぎない市場優位性を確立。

近年、医療財政の悪化を背景に、医療業界を取り巻く経営環境はますます厳しさを増しております。今後の見通しとしては、医療保険制度改革をはじめ、第5次医療法、介護保険法、診療報酬・介護報酬などの改正が予定されており、医療・介護サービスの提供機関にとっては、これら一連の改革・改正後は厳しい状況になっていくことが懸念されています。

このような市場動向においては、『強い企業体力』を構築することこそが何よりも重要です。健全な財務体質はもちろんのこと、仕事の質や社員のモラルが低くては企業としての成長性・収益性は望めません。そういう意味では、企業間の競争は社員個々の質の競争であると言えるのではないのでしょうか。企業が新たな飛躍を遂げるためには、企業の構成員たる

“人”を育成し、社員一人ひとりがより高い目標に向かって努力できる環境が大切です。当社は、各種教育研修プログラムを実施することで、常に技術の向上を図りながら、挑戦し続ける強い意志と行動力を持つ人材の育成を実践しています。

また、ファルコグループは医療現場からの要請に迅速に応えることのできる体制も構築。臨床検査事業を主軸に、調剤薬局事業、電子カルテの開発・販売、食品衛生・環境検査、予防医学の一端を担う遺伝子検査事業などを展開し、生命と健康を守る現場を多面的にサポートしています。今後も、これまでに蓄積した知見と技術を活かして、健やかな長寿社会の実現と予防医学の発展に貢献していきたいと考えております。

大きな組織力をもって、  
真に頼られる企業へと成長

国立病院の独立行政法人化に伴う院内検査の外部委託化がますます顕著になってきています。病院内の臨床検体検査市場は推定5,000億～6,000億円にもものぼると言われ、このうち2割が外部委託に移行していくことが予想されています。また、医薬分業化に伴う調剤薬局市場の拡大、食品の安全性への関心の高まりから食品検査事業の需要も伸びてきているなど、ビジネスチャンスは大きな拡がりを見せています。当社は、積極的な営業活動による新規顧客の開拓はもちろん、M&Aを基本戦略に臨床検査事業、調剤薬局事業を強化し、経営の2本柱にしたいと考えています。

現在、臨床検査業界を担う企業や団体数は、およそ900と言われていますが、今後、医療費の抑制や個人情報保護法への対応、医療現場のあらゆる要請に応えるための新技術の導

入や設備投資など、各社それぞれが単独で対応していくには限界が生じることは言うまでもありません。当社は業界再編のまとめ役として、M&Aや業務提携により各社とのグループ化を積極的に推進。ファルコグループは、大きな組織力をもって質の高い臨床検査サービスを提供し、生命と健康を守り、現場から真に頼られる存在を目指してまいります。

また、各企業に「会社は公器である」というしっかりとした認識と姿勢が問われるという風潮が高まっています。当社はこれまでも社内規程の制定などによるコンプライアンスの徹底に努め、このたび「ファルコ行動憲章」を制定いたしました。組織の隅々にいたるまで周知徹底することで、企業価値の向上に取り組んでまいります。株主のみならずにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い、なにとぞよろしく願い申し上げます。

### ファルコ行動憲章

1. 社会に共感される行動
2. 良き企業市民としての行動
3. お客様の満足を満たす行動
4. 法令を遵守し、反社会的勢力を排除する行動
5. 環境への積極的な行動
6. 公正で信用を第一とする行動
7. 従業者の人権尊重と能力を発揮させる行動
8. 役員・幹部社員の責務と行動



## 臨床検査事業と調剤薬局事業を拡大強化し、収益の2本柱に。

トップレベルの技術で約15,000施設をサポート。さらなる業績の拡大に挑む。



総合研究所



検体のバーコード管理



認定検査医や学術顧問による定期的な教育・研修会を行い、検査知識と技術の向上に努めています。

当社の総合研究所とイムノ研究所では、臨床検査業界における品質・安全の世界的な権威であるCAP (College of American Pathologists : 米国臨床病理医協会) の認定を取得。また、総合研究所では平成14年2月、ISO9001の認証も取得し、「迅速と正確」をテーマに、すべてのプロセスにおいて厳格な品質管理を実施しています。総合研究所を核としたラボネットワークや、69カ所の営業所を各地に整備し、地域に密着した検査受託体制で、業界最多の約15,000にもおよぶ医療機関をサポート。現在、独立行政法人化で検査業務の外部委託が進む、国立病院、大学病院にも積極的な営業活動を行い、さらなる業績の拡大を目指してまいります。

需要拡大に伴い出店を加速。調剤だけにとどまらない地域密着型のサービスに向けて。

調剤薬局市場は、院外で薬を処方する医薬分業の進展に伴い、拡大の一途をたどっています。当社は平成11年より調剤薬局事業に参入し、店舗を各地に開局。平成16年3月には、チューリップ調剤株式会社を子会社化し、事業エリアを拡大するとともに、薬剤仕入れなどでのスケールメリットの向上を図りました。また、最新の調剤システムの導入により、正確でスピーディーな調剤、厳密な薬歴管理など、信頼性の高いサービスを提供しています。さらには、グループのネットワークを活かして患者さまと医療機関の両方に接点を持ち、在宅ケアなどの展開も視野に入れた地域密着型のきめ細やかな活動を推進しています。今後も新規出店を積極的に進めるとともに、M&A戦略により規模を拡大し、臨床検査事業と並ぶ、新たな収益の柱として事業を強化してまいります。



(株)ファルコクリニカルプラン



チューリップ調剤(株)

## 成長分野への積極的な取り組みで、新たな事業基盤を構築。

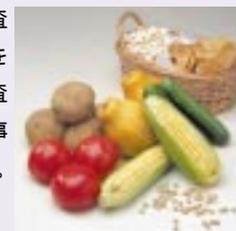
ヒト遺伝子検査の普及に向けた体制を整備し、責任ある担い手として発展を目指す。

各種疾患の発症リスクを調べることができれば、その病気を未然に防いだり、早期発見に結びつけることが可能となり、予防医学や真のテーラーメイド医療を実現できます。当社は平成12年1月、ミリアド・ジェネティクス社(米国:ユタ州)と業務提携し、同社が保有するヒト遺伝子配列特許に基づいた遺伝子検査の日本における独占実施権を獲得。以来、発症リスク診断検査の臨床応用に向けて、医療専門家と協力しながら土壌作りを進めています。現在、遺伝性乳がん・卵巣がんの原因と目されるBRCA1及びBRCA2遺伝子の日本人患者における変異を解析し、日本人における臨床的有用性を確認するため、国内5医療機関と共同研究を実施しています。この研究成果を基に、わが国における予防医学的遺伝子検査の本格的な普及への道が開け、従来の臨床検査とは異なる新市場開拓に寄与できるものと考えています。また、医療関係者への情報提供として、遺伝カウンセリング等に関する学術講演会を開催するほか、当社ホームページに国内外の最新情報を掲載するなど、遺伝子診療体制確立のサポートに努めてまいります。

遺伝子検査情報サイト  
<http://www.falco-genetics.com>

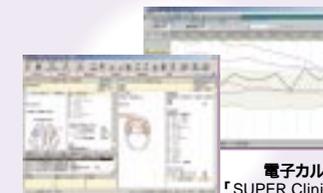
世界標準の検査技術による遺伝子組換え食品検査を実施。食の安全性向上に貢献する。

平成12年1月、世界18カ所の検査機関に独自の検査技術を提供し、検査機関のグローバルネットワークを構築しているジェネティック・アイディー社(米国:アイオワ州)と提携。世界標準の検査技術を用いた遺伝子組換え食品検査を実施しています。また、黒豚判別遺伝子検査、動物由来体含有検査、アレルギー特定原材料含有検査など、食に関わる様々な検査を受託しています。今後も、検査項目のさらなる拡充を図り、事業拡大に取り組んでまいります。



蓄積されたノウハウを活かして地域医療の高度情報化を推進する。

医療情報システムの開発・販売を通じて医療現場の情報化をサポート。機能性・汎用性に優れた電子カルテ「SUPER Clinic」をはじめ、診療支援システム「TASCAL」、人間ドック・検診システム「Hyper Dock」など、長年にわたる臨床検査のノウハウを活かし、医療現場の要望に応える様々なシステムを提供しています。また、検査事業のネットワークを活かして、医療機関の経営サポートや学術情報サービスの提供など、積極的な事業展開を図ってまいります。



電子カルテ「SUPER Clinic」

# Topics トピックス

## 岐阜県における営業エリアの拡大に向け、 有限会社飛騨臨床検査センターを子会社化



当社は、平成17年1月31日付で、有限会社飛騨臨床検査センターの出資持分の一部を取得し、子会社化いたしました。同社は、昭和39年4月1日岐阜県登録第1号、全国で48番目の検査センターとして創業。岐阜県北部の高山市に本社を置き、「正確、迅速、親切」をモットーに、地域の医療機関、保健所の要請に実直に応える検査センターとして厚い信頼を獲得してきました。新たなグループ会社を加えることで、臨床検査事業の営業エリアを岐阜県全域に拡大。県内では岐阜営業所に続く拠点として、検査受託体制を強化し、さらなる業績の向上に取り組んでまいります。

## 医療機関向け個人情報保護セミナー開催

医療機関にとって、個人情報保護法にどのように対処していくかが大きな課題となっております。ファルコグループでは個人情報保護法について“医療機関が取り組むべき対策”をテーマに、東京、名古屋、大阪、岡山などにおいてセミナーを開催いたしました。セミナーでは、昨年末に厚生労働省から発表された医療機関向けのガイドラインの概要と、具体的な対策事例の紹介など、いち早く医療機関にとって有用な情報を提供いたしました。

施行に対して苦慮されている医療機関も多く、各会場とも非常に大きな反響をいただくことができました。

一方、ファルコグループ内においても、コンプライアンス・プログラムの一環として個人情報保護法への対応に積極的に取り組み、社内研修などの実施を通じて同法の理解や保護意識の啓発を図るとともに、具体的な行動指針を制定し、事業活動を通じて取得した個人情報について、適正な取り扱いを徹底するよう全従業員に指導しております。



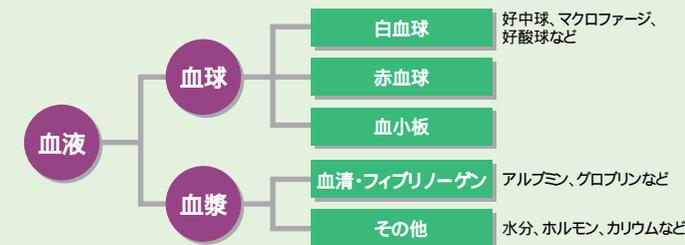
## やさしい臨床検査

# 知りたい、聞きたい 血液検査

「血の滲むような努力」、「血が騒ぐ」など、“血”にまつわる故事・ことわざは枚挙に暇がありません。ここでは、生体を維持する上での必須条件である“血液”にスポットを当て、「臨床検査」について、わかりやすくご紹介していきます。それぞれの臨床的な意義や病名などを一読のうえ、みなさまの健康管理にお役立てください。

### 【血液一般検査】

人の体内には、約4ℓの血液(体重50kgの場合)があります。血液検査では腕などの静脈から血液を採取しますが、この血液に抗凝固剤を加えて遠心沈降させると、血漿成分と有形成成分に分離します。このうちの有形成成分が血球です。  
血球には、「白血球」、「赤血球」、「血小板」などがあります。



### 白血球数(WBC)

白血球は、細菌やウイルスなどの侵入に対して体を防御する役割を持っています。この検査は血液疾患や炎症性疾患の診断・経過観察に用いられています。

高値のとき: 感染症(球菌等)、造血器疾患、白血病等  
低値のとき: 感染症(ウイルス)、白血病等

### 赤血球数(RBC)

赤血球は主に酸素を体中に運ぶ役割をしており、骨髄で造られてから約120日で寿命を終えます。

高値のとき: 多血症  
低値のとき: 貧血症

### ヘモグロビン量(Hb)

赤血球における酸素運搬の中心役は、色素(ヘモグロビン)です。これは「鉄(ヘム)」と「グロビン」というタンパク質が結合したものです。色素の量と血液の酸素運搬能力はほぼ比例し、この色素の血液中の濃度が低下したとき体内に酸素が行き渡らず「貧血」を起こします。

高値のとき: 多血症  
低値のとき: 貧血、肝硬変、白血病等

### ヘマトクリット値(Ht)

血液中の赤血球が占める割合のことです。

高値のとき: 多血症  
低値のとき: 貧血症

### 血小板数(Plt)

血小板は、出血したときに血の固まり(血栓)を作って血管をふさぎ、止血をする役割があります。数が極端に減少したり、機能が低下した場合に出血しやすくなります。血小板を増殖する因子は肝臓で造られるため、肝機能を見る場合にも有効です。

高値のとき: 炎症性疾患、本態性血小板症等  
低値のとき: ITP(特発性血小板減少性紫斑病)、肝硬変、再生不良性貧血症

### 赤血球恒数(MCV・MCH・MCHC)

赤血球恒数は各々の赤血球数(RBC)、ヘモグロビン量(Hb)、ヘマトクリット値(Ht)をもとに計算で出された数値で、貧血のタイプを分類するのに重要な項目です。

貧血の診断基準(WHOによる)

	ヘモグロビン量(Hb)g/dℓ	ヘマトクリット値(Ht)%
小児(6~14歳)	12以下	36以下
成人:男性	13以下	39以下
成人:女性	12以下	36以下
妊婦	11以下	33以下

## 営業の概況と推移

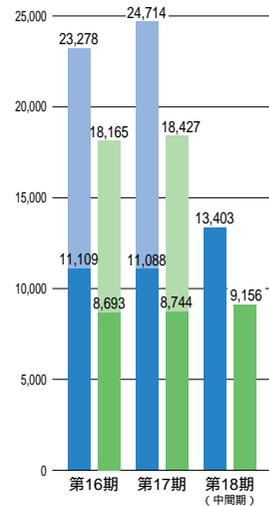
当中間連結会計期間の受託臨床検査市場は、医療費抑制政策による検体検査受託単価の低下傾向が続いており、価格面では依然として厳しい状況で推移しましたが、当社においては、独立行政法人化された国立病院などにおいて院内検査室運営の外部委託化が促進されたことから、検査受託数は増加傾向にあり、明るい兆しが見えてまいりました。

調剤薬局市場は、薬価及び保険制度の改定による構造的な収益率の低下が続いておりますが、政府の医薬分業政策が進められている中、分業率は全国平均で50%を超え、分業率の低い地域を中心に市場は徐々に拡大しております。

このような経営環境のもと、当社グループは、M & Aの実施や独立行政法人化された国立病院などの院内検査室運営の新規受託などにより売上高の増加を図るとともに、コスト削減を進め、収益力の向上に努めてまいりました。

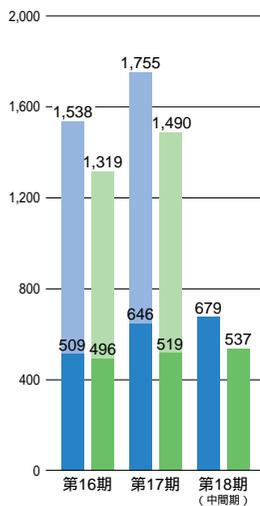
この結果、当中間連結会計期間の売上高は、134億3百万円（前年同期比20.9%増）、経常利益は6億79百万円（前年同期比5.0%増）、中間純利益は3億24百万円（前年同期比25.0%増）と増収増益になりました。

売上高（百万円）



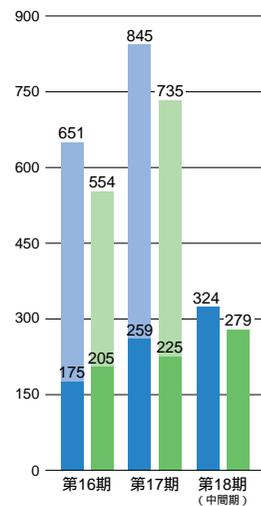
連結 通期 中間期  
単独 通期 中間期

経常利益（百万円）



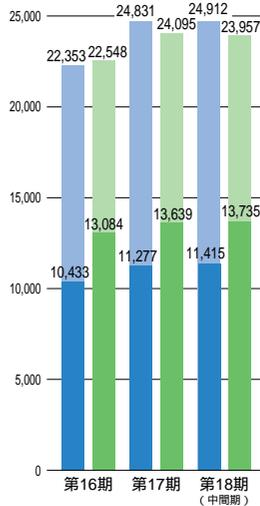
連結 通期 中間期  
単独 通期 中間期

当期純利益（百万円）



連結 通期 中間期  
単独 通期 中間期

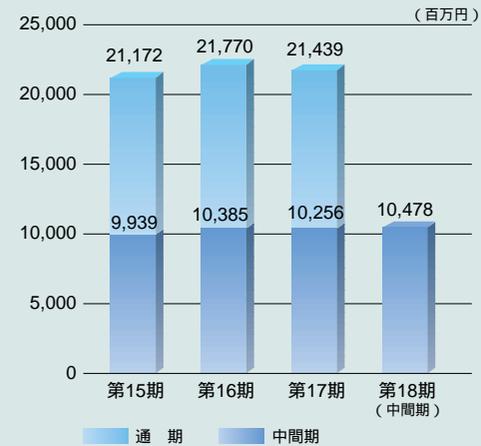
総資産・純資産（百万円）



連結 総資産 純資産  
単独 総資産 純資産

## 事業部門別概況

臨床検査事業及び周辺事業の売上高の推移



## 臨床検査事業及び周辺事業

臨床検査事業につきましては、新規顧客の獲得及び独立行政法人化された国立病院など院内検査室運営の新規受託件数が順調に増加したこと、花粉アレルギー検査の受託件数が急増したこと及び平成17年1月31日付で有限会社飛騨臨床検査センター（本店：岐阜県高山市）の出資持分の一部を取得し、子会社化するなど売上高の増加及び営業エリアの拡大を図りました。

食品衛生・環境検査事業につきましては、平成17年3月にISO9001の認証を取得し、検査の精度管理・品質保証体制の強化に努めました。

医療情報化事業につきましては、電子カルテなどの医療情報システムの販売活動を強化し、臨床検査事業との相乗効果を図りました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は、104億78百万円（前年同期比2.2%増）となりました。

## 調剤薬局事業

調剤薬局事業につきましては、昨年4月に実施された薬価改定の影響を受けましたが、株式会社ファルコクリニカルプランが京都府に1店舗、大阪府に2店舗を、チュールリップ調剤株式会社が富山県に5店舗を開局し、売上の拡大を図りました。これにより、当社グループが運営する調剤薬局等店舗総数は47店舗となりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は、29億24百万円（前年同期比251.7%増）となりました。

なお、当社は、平成17年3月22日付で京都市に本拠を置くファーマプロットグループ3社（株式会社プロット、株式会社ファーマプロット及び株式会社MINORI）の株式を取得し、子会社いたしました。平成17年3月22日現在の同グループ3社の店舗総数は、10店舗であります。

調剤薬局事業の売上高の推移



## 連結決算の状況

### 中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期	前中間期	前期	科目	当中間期	前中間期	前期
	(平成17年3月20日現在)	(平成16年3月20日現在)	(平成16年9月20日現在)		(平成17年3月20日現在)	(平成16年3月20日現在)	(平成16年9月20日現在)
<b>資産の部</b>				<b>負債の部</b>			
流動資産	9,034	7,940	8,929	流動負債	9,532	8,373	10,820
現金及び預金	2,750	3,063	2,719	支払手形及び買掛金	2,061	1,062	1,791
受取手形及び売掛金	5,090	4,188	5,139	短期借入金	5,061	5,209	6,565
たな卸資産	541	337	452	1年以内償還予定転換社債	—	11	—
その他	731	449	701	未払金	1,240	1,015	1,139
貸倒引当金	79	98	83	その他	1,169	1,074	1,324
固定資産	15,877	14,034	15,902	固定負債	3,964	2,897	2,732
有形固定資産	10,164	9,845	10,157	長期借入金	2,555	1,635	1,357
建物及び構築物	3,940	3,708	3,956	その他	1,408	1,262	1,375
土地	4,671	4,445	4,642	負債の部合計	13,497	11,271	13,553
その他	1,551	1,691	1,558	少数株主持分	—	—	—
無形固定資産	2,607	1,450	2,691	資本の部			
投資その他の資産	3,105	2,738	3,053	資本金	2,620	2,615	2,620
1 投資有価証券	1,641	1,135	1,201	資本剰余金	2,491	2,486	2,491
その他	1,663	1,787	2,049	利益剰余金	6,187	5,478	6,064
貸倒引当金	199	184	197	その他有価証券評価差額金	151	157	135
資産の部合計	24,912	21,975	24,831	自己株式	36	33	34
				資本の部合計	11,415	10,703	11,277
				負債、少数株主持分及び資本の部合計	24,912	21,975	24,831

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

1 証券取引法等の一部を改正する法律(平成16年法律第97号)に基づき、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資を有価証券とみなし、「投資有価証券」に含めました。

2 短期借入金を長期借入金に振り替えました。

### 中間連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期	前中間期	前期
	(平成16年9月21日から平成17年3月20日まで)	(平成16年9月21日から平成16年3月20日まで)	(平成16年9月21日から平成16年9月20日まで)
3 売上高	13,403	11,088	24,714
売上原価	7,789	5,653	13,035
売上総利益	5,614	5,434	11,678
販売費及び一般管理費	4,911	4,738	9,866
営業利益	702	696	1,812
営業外収益	78	42	147
営業外費用	102	91	204
経常利益	679	646	1,755
特別利益	7	16	25
4 特別損失	18	113	94
税金等調整前中間(当期)純利益	667	550	1,686
法人税、住民税及び事業税	308	254	774
過年度法人税等	—	—	29
法人税等調整額	35	36	36
中間(当期)純利益	324	259	845

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

3 独立行政法人化された国立病院等の新規受託、チューリップ調剤買収効果、調剤薬局出店、花粉アレルギー関連の好調などにより増収となりました。

### 中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期	前中間期	前期
	(平成16年9月21日から平成17年3月20日まで)	(平成16年9月21日から平成16年3月20日まで)	(平成16年9月21日から平成16年9月20日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,042	1,288	2,236
投資活動によるキャッシュ・フロー	513	511	2,917
財務活動によるキャッシュ・フロー	508	262	813
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	2	1
現金及び現金同等物の増減額	20	512	131
現金及び現金同等物の期首残高	2,662	2,508	2,508
非連結子会社併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	22	22
現金及び現金同等物の中間(期末)残高	2,682	3,043	2,662

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

4 固定資産評価損、投資有価証券評価損などが減少しました。

## 単独決算の状況

### 中間単独貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 (平成17年3月20日現在)	前中間期 (平成16年3月20日現在)	前期 (平成16年9月20日現在)	科目	当中間期 (平成17年3月20日現在)	前中間期 (平成16年3月20日現在)	前期 (平成16年9月20日現在)
<b>資産の部</b>				<b>負債の部</b>			
流動資産	6,761	6,662	6,841	流動負債	6,764	6,610	8,230
現金及び預金	1,515	1,885	1,384	買掛金	790	682	701
受取手形及び売掛金	4,220	4,056	4,483	短期借入金	4,042	4,104	5,484
たな卸資産	281	217	246	1年以内償還予定転換社債	—	11	—
その他	814	592	800	未払金	1,044	949	990
貸倒引当金	70	89	74	その他	886	861	1,054
固定資産	17,195	15,583	17,254	固定負債	3,457	2,494	2,225
有形固定資産	8,007	8,340	8,111	長期借入金	2,410	1,485	1,177
建物及び構築物	3,096	3,162	3,142	その他	1,046	1,008	1,048
土地	3,602	3,602	3,602	負債の部合計	10,221	9,104	10,456
その他	1,307	1,574	1,365	<b>資本の部</b>			
無形固定資産	640	825	752	資本金	2,620	2,615	2,620
投資その他の資産	8,547	6,417	8,390	資本剰余金	2,494	2,488	2,494
投資有価証券	1,641	1,135	1,201	利益剰余金	8,505	7,913	8,423
その他	7,039	5,410	7,319	その他有価証券評価差額金	151	157	135
貸倒引当金	133	128	130	自己株式	36	33	34
資産の部合計	23,957	22,245	24,095	資本の部合計	13,735	13,141	13,639
				負債及び資本の部合計	23,957	22,245	24,095

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

### 中間単独損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 (平成17年3月20日まで)	前中間期 (平成16年3月20日まで)	前期 (平成16年9月20日まで)
売上高	9,156	8,744	18,427
売上原価	5,178	4,673	9,781
売上総利益	3,977	4,070	8,645
販売費及び一般管理費	3,449	3,540	7,178
営業利益	527	530	1,466
営業外収益	101	70	202
営業外費用	91	81	178
経常利益	537	519	1,490
特別利益	5	6	13
特別損失	18	94	68
税引前中間(当期)純利益	524	432	1,435
法人税、住民税及び事業税	219	198	653
過年度法人税等	—	—	29
法人税等調整額	25	8	17
中間(当期)純利益	279	225	735
前期繰越利益	622	367	367
合併による未処理損失受入額	—	168	168
合併による子会社株式消却額	—	14	14
中間(当期)未処分利益	901	410	920

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## 株式の状況 (平成17年3月20日現在)

会社が発行する株式の総数 40,000,000株  
 発行済株式の総数 10,868,121株  
 株主数 4,640名

### 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
赤澤寛治	654,290	6.02
株式会社京都銀行	431,600	3.97
ファルコバイオシステムズ従業員持株会	333,920	3.07
バンクオブニューヨーク・シーエム クライアント アカウツイー アイエスジー	317,500	2.92
株式会社UFJ銀行	315,900	2.91
平崎健治郎	272,670	2.51
矢盛俊男	231,580	2.13
尾藤勇	212,190	1.95
大阪中小企業投資育成株式会社	208,000	1.91
金田直樹	202,150	1.86

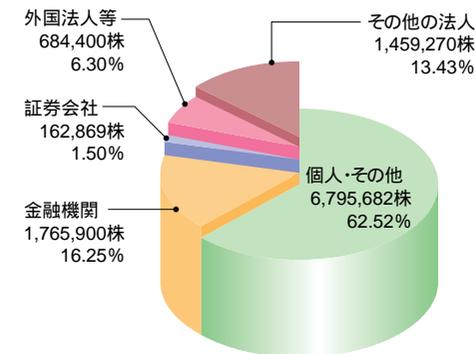
## 会社概要 (平成17年3月20日現在)

社名	株式会社ファルコバイオシステムズ (英文名 FALCO biosystems Ltd.)
本社所在地	京都市中京区河原町通二条上る清水町346番地
創設	昭和37年7月
設立	昭和57年8月
資本金	26億20百万円
従業員数	665名(単独)、1,093名(連結)
主要な事業内容	人体から採取した血液、尿等の臨床検体検査の受託業務及び医療機関から処方箋を交付された患者さまに対して、処方箋調剤を行う調剤薬局の経営

役員	代表取締役会長兼社長 赤澤寛治
	代表取締役副社長 平崎健治郎
	代表取締役副社長 高橋鼎一
	取締役 四方俊男
	取締役 環忠男
	取締役 土田美喜男
	取締役 安田忠史
	監査役(常勤) 矢盛俊男
	監査役(常勤) 佐々木信次郎
	監査役 木村秀夫
	監査役 竹内昭夫

監査役木村秀夫、竹内昭夫は、株式会社の監査等に関する商法の特別に関する法律第18条第1項に定める社外監査役であります。

### 所有者別分布状況



## ファルコグループ (平成17年3月20日現在)

### ネットワーク

地方名	営業所数	衛生検査所数	調剤薬局等店舗数
関東	4	3	0
中部	10	5	31
近畿	25	11	13
中国	14	7	0
四国	5	3	0
九州	11	6	3
合計	69	35	47

)調剤薬局等店舗数には、フランチャイズによる調剤薬局1店舗が含まれています。

### 関係会社

株式会社ファルコバイオシステムズ東京  
 株式会社ファルコバイオシステムズ福井  
 有限会社飛騨臨床検査センター  
 株式会社ファルコバイオシステムズ兵庫  
 株式会社ファルコバイオシステムズ山陰  
 株式会社ファルコバイオシステムズ西日本  
 株式会社ファルコバイオシステムズ九州  
 株式会社ファルココミュニケーションズ  
 株式会社フレスコメディカル  
 株式会社ファルコライフサイエンス  
 チューリップ調剤株式会社  
 株式会社ファルコクリニカルプラン